



# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043(222) 7207 番

No.

96.8.16 4449

## 職場に「点呼」が来た 現実たて果てたあき果

### 習志野運輸区

習志野運輸区で起きている、JR東労組と当局のあまりにも異常な癒着の実態を報告する。東労組の乗務員が、点呼もとらずに乗務し、当局はそれを咎めるどころか容認し、逆にこの事態を糾した動労千葉の組合員をどう喝しているのである。

当局は習志野運輸区を「モデル職場」と称している。何のことはない、配転等で動労千葉の組合員を排除し、東労組の組合員が多数を占めているというだけのことだが、これが「モデル職場」の実態だ。しかもこの報告は氷山の一角に過ぎない。

### 「うるせえ！」

七月二一日、習志野運輸区でA運転士(東労組所属)を出動点呼をとらないまま乗務させたことに、その場にいた動労千葉組合員と当直助役の間で、次のようなやりとりがあった。

発端は、当直助役が電話対応をしていたところ、出動したA運転士は、出区電車が出てきたのを見て、それに便乗しようとして、カードだけをとって、「じゃあ」と行ってしまったことにある。当直助役はそれを止めようとしなかった。なおこの時、A運転士の出勤時間まではまだ三〇分以上あった。

その場に居た動労千葉の組合員と当直助役とのやり取りは、概ね次のようなものであった。

**組合員** 点呼をとらずに行っちゃったけどいいの。

**当直** (探そうともせず、窓の外をちよつと見て) 居ないや。電話点呼をとるからよ

や。電話点呼をとるからよ

**組合員** そんなことでもいいの

まだ三〇分あるんだから呼び戻して点呼をとればいいじゃないか。駅までの徒歩時間は十分だから時間的には間に合うじゃないか。

**当直** 雨が降ってるのにかわいそうだからよ。

**組合員** 何言ってるんだ。動労千葉の組合員に対しては点呼のときに、ポタンひとつまで文句言うのにおかしいじゃないか。

**当直** そんなうるさいことを言うなら、(出勤準備の時に)将棋をやっているのを処分するぞ。

まさに、あきれ果てたもの言うこともできない。しかも、その後津田沼駅ホーム詰所に電話した当直助役は、「うるせいのが居るから電話点呼をとるからよ」と言っている。電話点呼を行なっているのである。

### 東労なら何をやってもいいのか

これは、明らかな就業規則違反行為であり、当直助役としての常識を疑うしかない得ない対応である。この間千葉支社は、「点呼の厳正」と称して、動労千葉や国労の組合員に対しては、「出勤点呼時の指針唱和拒否」や「乗務手帳への記載事項漏れ」等を理由にして膨大な人数にのぼる一時金減額や処分を強行してきた。そもそも、当局は、「入出区電車には便乗してはいけない」と指導しており、動労千葉の組合員だったらそれだけで処分だ。

ところが、東労組の組合員には、点呼をとらないで乗務してしまふ行為を容認するどころか、動労千葉の組合員がそれに疑問を呈したところ、「うるせいのがいるから電話点呼とるからよ」という対応をするのである。まさに当直助役として、常軌を逸した行為である。

労働行為の限りを尽くし、労働委員会でも不当労働行為が認定されてもなお、行政の命令に従おうともしない、JR東日本のあまりに異常な労務政策、経営姿勢が象徴的に示されている。十年間、こんなことをやり続けた結果、ついにはここまで行き着いてしまったのだ。われわれは、こんなことは絶対に認めない。

## 狭山八九 要請行動中

八月九日、部落解放同盟全国連合会主催による狭山差別裁判糾弾一八・九寺尾判決糾弾の法務局人権委員会・東京高裁要請行動が闘われた。

午前一一時に東京法務局人権委員会に昨年より闘われている全国連の狭山再審を求める東京高裁要請行動の中で発生した高裁木村書記官による「部落差別はなくなっている。部落の人はわれわれより良い家に住んでいる。」なる差別発言をめぐり、人権委員会として明確な態度を示すよう求めて代表団を人権委員会に送った。

続いて、正午より裁判所を中心とする霞が関官庁街のデモ、デモ終了後は、官庁街での狭山再審を求める署名、ピラマキ行

また、午後三時より東京高裁に全員が赴き、高裁要請行動が闘われた。今回の要請行動では石川さんの無実を示す数々の証拠のうち、犯人が身の代金を受け取りにきた現場に残された足跡について「犯人が残した足跡は石川さんの足より全く小さく、物であること」を実験も含め、国連茨城県連の井橋事務局長が明らかにし、検察庁が明らかにしないその証拠を開示させるよう求め、書記官は、「きょうのこと、高木裁判長へ報告すること」を約束した。

いよいよ狭山再審を巡り緊迫した状況になっている。八・九行動で、高裁要請行動をさらに強めることを確認してきた。